

段ボールコンポストの使い方



①生ごみを投入する

1日あたり投入できる量は約600g（三角コーナー1杯程度）。大きい生ごみは小さくして入れると分解しやすいです。

●ここがポイント

基材（ピートモス、もみ殻くん炭）がほんのり湿っている状態を維持してください。微生物による生ごみの分解には適度な水分が必要です。ただし、水分が多すぎるとカビの発生や段ボールを痛める原因となりますので注意してください。

●生ごみの投入例

野菜の皮や切れ端、果物、肉や魚（骨は入れない）、ぬか

●投入しないほうがいいもの

酸っぱいもの、塩辛いもの、卵の殻、肉の骨、玉ねぎの皮、とうもろこしの芯、竹の子の皮、カレーのルー、腐ったもの、洗剤



②毎日の管理

開始して2週間ほどで分解が本格化し、徐々に温度が上昇します。微生物は空気に触れることで、生ごみの分解を進めます。毎日、新鮮な空気を送るためよくかき混ぜてください。

●ここがポイント

毎日、よくかき混ぜてください。混ぜた後は生ごみが表面に出ていると臭いや虫の発生につながりますので基材の中に隠すようにしてください。

段ボールコンポストの使い方



③使用期間について

1箱で約3ヶ月くらい使用できます。生ごみの量にして約30～45kgを処理することができます。

●長持ちさせるポイント

通気性を良くするためコンテナケース等の上に設置してください。風とおしのよい軒下などの温度が15℃以上になる場所に設置するのが理想的です。

●雨や湿気で段ボールが痛む

日に干せば回復しますが、痛みがひどい時はスーパーなどで新しい段ボールをもらって移し変えるとよいです。

●終了の目安

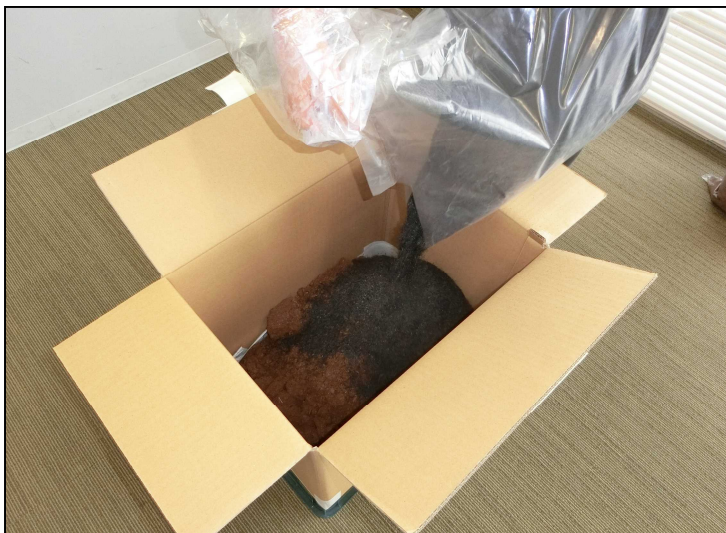
分解に時間がかかるようになった。全体的に黒っぽくなり、中身がベタついてきた。塊が多くなってダマの状態になった。

④堆肥として使うには

生ごみの投入を止め、1週間くらいは残った生ごみを分解させるために毎日よくかき混ぜてください。その後1～2ヶ月ほど放置して熟成させれば堆肥として使えます。

●注意ポイント

未熟な堆肥の使用は根腐れの原因になります。



⑤2箱目の開始

1箱目の終了が近づいたら2箱目の準備を始めましょう。1箱目の中身を少量、2箱目の段ボールに入れてかき混ぜると微生物が引越すことができるので、分解が早まります。

<Q&A>

Q 基材の温度が上がらない。

特に冬場は温度が上がらないことがあります。次のことを試してみてください。

A ●生ごみを入れたら、きちんとかき混ぜる。

●基材が乾いているときは、水を入れて湿らせる。

●米ぬかやとぎ汁、廃食用油などを生ごみと一緒に入れる。

●肉や魚などの動物性たんぱく質、ご飯を入れる。

●寒い時期は毛布などで保温したり、お湯を入れたペットボトルを基材に挿す。

Q 何日か家を留守にする。

A ●できれば数日前から生ごみの投入を中止してください。

よくかき混ぜて、できるだけ涼しい所に置きます。

再開するときは、暖かい所に置き、よくかき混ぜてから始めてください。